【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	静岡県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	静　岡　市　立　清　水　第　五　中　学　校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	３	４	０	１０	１７
生徒数	１０３	１１７	１５６	０	３７６	

Ⅱ　研究の概要

１　研究主題

単元のねらいを生徒が意識して取り組む授業
－「できた、わかった、もっとやってみたい」授業をめざして－

２　研究内容と方法

（１）　施学年・教科

ア　全学年・全教科（学習意欲の向上及び問題解決能力の育成）
イ　全学年・英　語（個を生かすためのきめ細かな指導の実現）
ウ　全学年・数学、英語（基礎的知識及び技能の育成）

（２）　年次ごとの計画

平成15年度

○ テーマ「単元のねらいを生徒が意識して取り組む授業」
－「できた、わかった、もっとやってみたい」授業をめざして－

○ 研究の見通し（仮説）

単元の中で学習の基礎となる力を身につけ、生徒がねらいをもって課題の追求活動ができれば、その中で思考力や判断力が高まり、「できた」「わかった」喜びを味わいながら、問題解決能力が高まっていくだろう。

○ 研究内容・方法

１　指導方法の工夫・改善

（１）　ねらいを意識した授業の展開

ア　授業評価の実践（自己評価活動）

ねらいに応じた活動の中で、できたこと、理解したこと、感じたことなどをふり返り、学習内容を整理する。

イ　各教科の授業における生徒の態度を把握する。

アンケートによる教科別意識調査の実施及び検討

（２）　少人数指導（英語で実践）

ア　１年生　週１時間の少人数指導を実施
イ　２年生　週３時間の少人数指導を実施（TT及び課題別指導の実施）
ウ　３年生　週３時間の少人数指導を実施（２ｸﾗｽ３Ｔで実施）

２　集中力と基礎的な知識･技能の育成

計算における基礎的技能、単語の基礎的知識の習得による学力の基礎的能力と集中力の育成

（１）　学習（２５分）で実施

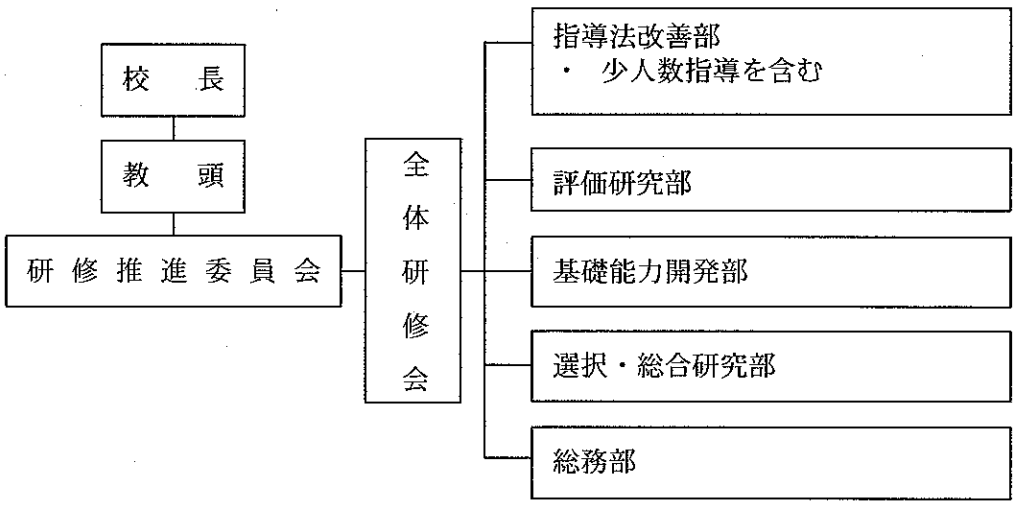
学習意欲を喚起するコース選択、生徒自身による達成感認識のグラフ化、達成度による賞状の授与を行う。

（２）　補習学習（木曜放課後に実施）

ア　基礎的知識・技能の定着を模試と定着度調査で確認。合格基準を設定して、再テスト及び再学習を実施する。

平成16年度	○ テーマ「単元のねらいを生徒が意識して取り組む授業」 －「できた、わかった、もっとやってみたい」授業をめざして－ ○ 研究の見通し（仮説） 単元の中で学習の基礎となる力を身につけ、生徒がねらいをもって課題の追求活動ができれば、その中で思考力や判断力が育成され、「できた」「わかった」喜びを味わいながら、問題解決能力が高まっていくだろう。 ○研究内容・方法 基本的には平成１５年度の内容を追求し、定着を図る。 1　各教科及び選択教科、総合的な学習で「確かな学力」の定着を図る。 2　生徒の学習意欲を喚起する評価方法の改善

（3） 研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

1　研究の成果

（1）指導法の工夫・改善

ア　授業改善

学習評価カードや具体的提示物を使い、課題を明確化することで、一人一人の生徒が目標をもち、追求しようとする意欲的な活動が行われるようになってきた。評価カードは、生徒が、目標に対する学習活動を振り返ることで、目標達成の有無とその理由が明確になり、指導と評価がしやすい状況をつくり出している。

イ　少人数指導

(ｱ) 生徒との関わりが多くなり、特に中位群の生徒が、苦手意識を克服し、やる気を見せる場面が多くなった。なお、上位群と下位群では、大きな変化が見られなかったので、今後の課題として考えたい。

(ｲ) 基本的に等質集団で授業を実施したが、今後は、子どもの実態を考え、リスニングや会話、読み書きなどの課題別のコース選択を設定する必要がある。

（2）集中力と基礎的知識技能の育成

朝学習の習慣化を図ることで、基礎的な知識や技能を前向きに習得しようとする意欲が見られてきた。繰り返し行うことによって生じた、計算時間の短縮や解答数の増加により、授業のウオーミングアップ効果や、集中力の向上を、生徒自身が実感できるようになってきた。補習学習としての確認テストも合格目標をより高く設定し、合格をめざす生徒が非常に増えた。

（3）その他
　学期ごとに行った授業に対しての生徒の教科別意識調査を、生徒の目から見た教科に対する思いと真摯に受け止め、授業改善へ繁栄させようという教師側の意識改革につながった。

2　今後の課題

（1）　全教科共通課題として、学習の定着度の向上と、書く力の弱さの指摘（速度の遅さ、量の少なさ、表現力の乏しさなど）解決のための、書かせる場面（思い出す・課題を明確化する・振り返らす）の意識的な設定を行う。
（2）　個に応じた課題設定と、具体的な指導と支援の方法についての研究
（3）　問題を解決する力を伸ばすために必要な、基礎・基本的な知識や技能の習得
（4）　生徒の実態にあった少人数集団の編成
（5）　機能的な研修組織の再編

Ⅳ　学力把握としての学校としての取り組み

（1）　学ぶ意欲
　授業では、教科別に生徒の学習に対する意識調査を、年度始めと各学期終わりの計４回実施。その変化を確認している。
（2）　基礎的な知識･技能の定着
　模試及び定着度調査を定期的に実施。達成度をグラフ化している。
（3）　授業と評価
　評価カード等を利用して、できたこと、わかったこと、感じたことの内容を自由記述し、その記述内容の質的変化を確認する。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成１６年１１月１８日（木）に研究発表会を実施予定
e-mail　　smz_gochuu@city.shizuoka.shizuoka.jp

◇次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑　１５年度からの新規校　　☐１４年度からの継続校
【学校規模】　☐３学級以下　☐４～６学級　☐７～９学級　☑１０～１２学級
　☐１３～１５学級　☐１６学級以上
【指導体制】　☑少人数指導　☑Ｔ．Ｔによる指導
【研究教科】　☑国語　☑社会　☑数学　☑理科　☑外国語
　☑音楽　☑美術　☑技術・家庭　☑保健体育　☐その他
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑有　☐無